「新宿新聞」創刊65周年
「新都心新聞」創刊10周年 記念号

❷面　国立競技場前に13階ホテル建設
❸面　代々木競技場前に新商業施設開業
❹〜❹面　祝・「新宿新聞」創刊65周年
「新都心新聞」創刊10周年に寄せて
❺〜❻面　歴史に残る新都心の企業・老舗

ホームページ http://www.shinjuku-shinbun.co.jp

週刊 新宿新聞
THE SHINJUKU SHINBUN

12月15日
2018年（土曜日）
（第2063号）

社章

発行所
株式会社新宿区新聞社
編集・発行人 喜田 勇
新宿区西新宿7－7－25
ワコーレ新宿第2ビル

PRESS

購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊65周年　☎3369－6195　FAX3369－0759　（昭和28年12月4日第3種郵便物認可）

四谷再開発 LINEが入居

渋谷に続き四谷にITの波

建設中の四谷駅前再開発ビル

大手ＩＴ企業の移転・増床の“波”は渋谷駅周辺から四ツ谷駅周辺へと波及した。2020年1月に完成する31階・四谷駅前再開発オフィス棟。そのメインテナントの1つとして、ＩＴ企業のＬＩＮＥが10フロア入居することが決まった。ＬＩＮＥは新宿南口のミライナタワーの本社を残しての増床だ。

▼渋谷が埋まり四谷が注目
大手ＩＴ企業の増床・移転の受け皿はこれまで、渋谷駅周辺の再開発ビルが担っていた。

今年9月に開業した渋谷ストリームではグーグルがオフィス部分を一括借りする形で六本木ヒルズから移転。来年3月開業の21階アベマタワーズにはサイバーエージェント、来年秋開業の18階渋谷フクラスにはGMOインターネットがオフィス部分をそれぞれ一括借りする形で、都心駅前で新規に大型オフィスが供給される地区として、四谷が注目されることになった。

渋谷駅前が埋まる中で、都心駅前で新規に大20年まで渋谷で新規供給される超高層ビル6棟全てがＩＴ企業などにより満室稼働となっている。

主なIT企業の移転・増床
- 渋谷ストリーム（今年9月開業）
　グーグルが一括借り
- アベマタワーズ（2019年3月完成）
　サイバーエージェントが一括借り
- 南平台プロジェクト（2019年3月完成）
　エデュラボ、VOYAGE GROUPら入居
- パルコ開発（2019年10月完成）
　デジタルガレージが一括借り
- 渋谷フクラス（2019年秋開業）
　GMOインターネットグループが一括借り
- 渋谷スクランブルスクエア東棟（2019年秋開業）
　ミクシィ、サイバーエージェント、レバレジーズら入居

LINE 四谷駅前再開発に10フロア入居
ミライナタワーに続く新拠点

東京五輪開催の2020年、本社を渋谷ヒカリエから新宿駅南口の32階駅ビル「ＪＲ新宿ミライナタワー」へと移転。15〜23階の9フロア約5千8百93坪を借りておりミライナタワーの機能をそのまま残しての増床だ。

四谷に入居するのは電子決済（ＬＩＮＥペイなど）の部門。新宿駅南口・タカシマヤタイムズスクエアの隣接地で19年8月の完成をめざし建設中の16階「新宿南口プロジェクト」の2〜3フロアにも入居。2棟を合わせた入居フロア面積は7千5百坪超となる。他地区のビルにも入居するようだ。

オフィス棟は20年1月に完成。地下1階〜地上2階の3フロアが商業、地上3階〜30階までの28フロア（基準階床面積6百40〜6百60坪）がオフィスとなる。

同ビルのキーテナントとして、ＩＴ企業のＬＩＮＥが21〜30階の10フロアに入居する。ＬＩＮＥは昨年、本社を渋谷ヒカリエから新宿駅南口の32階駅ビル「ＪＲ新宿ミライナタワー」へと移転。15〜23階の9フロア約5千8百93坪を借りておりミライナタワーの機能をそのまま残しての増床だ。

四谷に入居するのは電子決済（ＬＩＮＥペイなど）の部門。新宿駅南口・タカシマヤタイムズスクエアの隣接地で19年8月の完成をめざし建設中の16階「新宿南口プロジェクト」の2〜3フロアにも入居。2棟を合わせた入居フロア面積は7千5百坪超となる。他地区のビルにも入居するようだ。

朝日生命は4.5フロア入居
理研ビタミンは20年夏に移転

四谷駅前再開発ビルの賃料は坪当たり約3万5千円。ＬＩＮＥ以外では朝日生命が16〜20階の4フロア半（4千坪）、新菱冷熱工業が2フロア、理研ビタミンが2フロアで入居することが決まっている。完成1年以上前の段階で、オフィス部分28フロア中3フロア強を残し決まっている状態だ。

理研ビタミンは管理・開発を主部門とする本社（神田三崎町）、販売を主部門とする本社別館（麹町）、プレゼンテーションセンター（四谷）の3拠点を四谷駅前再開発ビルの11・12階の2フロアに統合する形で、2020年夏に移転を図る。

同社は現在、四ツ谷駅周辺に2拠点を置いている。拠点統合によるメリットに加えて、「四谷地区は迎賓館や外濠公園が近くにあるなど、緑が多く環境が良いこと」「再開発敷地内も緑地が多い（敷地の4割が緑地で占める）こと」「今後の再開発事業による街の発展が期待できること」が同地区への移転を後押しした。

その情報は「新都心新聞」で報道し、「新宿新聞」にも同時掲載しています。これからも新宿、渋谷、池袋が「世界都市」として発展していくことを、念じてやみません。

ところで、「新宿新聞」が65年間続いてまいりましたことは、私のみならず社員の大きな誇りであり、同時に“驚き”でもあります。

新宿の文化を育てようという“新宿人”の“粋”、“懐の深さ”があったればこそであり、「新宿新聞」の愛読者の皆様に、心より感謝申し上げる次第です。

祝 新宿新聞 創刊65周年

新都心新聞 創刊10周年

激化する都市間競争

創刊65周年にあたって…

新宿新聞主幹　喜田 勇

時は昭和38年。翌年の東京オリンピック開催に向けて、日本中が沸き立っていた頃、本紙は「新宿南口駐車場」の撤去キャンペーンを張りました。するとあるテキヤの恨みを買い、17歳の少年に腹部を刺され“九死に一生”を得たのが、本紙の創業者である森田正實でした。命を懸けて“正義”を貫いた森田の生き様は、その後の弊社の歴史の重要な一頁になっています。

戦後の闇市時代、新宿の人々は皆、それなりの覚悟・矜持を持ち、今日に見る新宿の繁栄の“礎”を築いたのです。

◆

さて、当時は街づくりにおいて、政治家が商業人よりも、勢いと力を持っていた時代でした。

バブル期は、新宿の住宅地までが“地上げ”され、再開発された時代です。私は法務局に連日通っては登記簿謄本を調べ、この頃です。その後は、区内繁華街に進出する企業の入れ替わりが激しくなり、量販店、ファッション店、プランド店などの出店がめざましく、それを“地価一等地の興亡”と“化”が予想されます。

◆

当然、課題もあります。新宿の街づくりは渋谷に遅れをとっていないか？羽田からの外国人客を、どう誘導し“おもてなし”するのか？繁華街の安全・安心を、どう担保するのか？今後は街づくりの進捗、街の変化を「比較」できる情報が求められてきます。

かれています。

羽田空港、リニア新幹線の表玄関となる「田川」も加わると、世界都市・東京の“多極化”が進み、さらに都市間競争の“激

◆

ところで、『新宿新聞』が65年間続いてまいりましたことは、私のみならず社員の大きな誇りであり、同時に“驚き”でもあります。

新宿の文化を育てようという“新宿人”の“粋”、“懐の深さ”があったればこそであり、『新宿新聞』の愛読者の皆様に、心より感謝申し上げる次第です。

◆

そして現在、新宿は渋谷、池袋との繋がりを深めながら、丸の内、銀座、虎ノ門など都心中央部の商業地と競合する“都市間競争”の真っ只中に置

歌舞伎町から淀橋、四谷、して報道してきました。

高田馬場、神楽坂の商業地を隈なく調査し、『地上げ地図』まで作って街の変化を追いました。

「調査報道」なるものの“先駆け”と言えます。

都庁が新宿に来たのも

祝 新宿新聞六十五周年 新都心新聞十周年

3区の有用な情報源

渋谷区長　長谷部 健

「新宿新聞」が創刊65周年、そして「新都心新聞」が創刊10周年を迎えられたことに、心よりお祝い申し上げます。

新宿区や豊島区などの情報と合わせまして、渋谷区に関する情報も取り扱っていただいており、多くの読者の方々に資する有用な情報源になっているものと思います。

これからの貴紙ならびに貴社の一層のご発展と皆さま方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

まちづくりに貢献

新宿区長　吉住 健一

新宿新聞創刊65周年、新都心新聞創刊10周年、誠におめでとうございます。創刊以来、貴紙は、新宿区及び都内の政治や経済、社会のニュースを報道され、その情報は「新都心新聞」で報道し、「新宿新聞」にも同時掲載しています。これからも新宿、渋谷、池袋が「世界都市」として発展していくことを、念じてやみません。

進化する街の姿を反映

豊島区長　高野 之夫

創刊65周年おめでとうございます。戦後復興の歩みと共に新宿の変遷をつぶさに辿ってこられた65年に敬意を表します。また新宿・渋谷・池袋に視野を広げ創刊10周年を迎えた「新都心新聞」は時代の風を捉えたローカル紙ならではの果敢な挑戦と言えます。20年オリンピックに向け変貌を遂げる大都市東京の中で3副都心もそれぞれに輝きを放ち国際都市として存在感を世界にアピールする必要があります。今後も進化するまちの姿を紙面に映し出すよう期待しています。

てこられました。地域産業や中小企業、文化に光を当てるとともに安全安心や防災の課題を取り上げることを通じて、まちづくりに貢献されています。また日頃より区の取り組みを発信いただき感謝申し上げます。今後も貴社が地方紙ならではの視点やフットワークの良さを活かし、益々ご発展されますことを祈念申し上げます。